システムプログラム 第6回

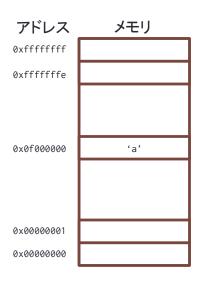
創域理工学部 情報計算科学科 松澤 智史

本日の内容

- ・システムプログラムの一部であるOSについて学ぶ
 - ・OSの機能の一つである「メモリ管理」を知ることで プロセスからメモリが抽象化されていることを学ぶ

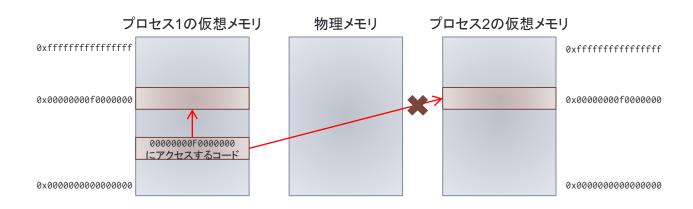
計算機のメモリ

- 1バイトごとにアドレスが割り当てられている
- 扱える上限がある
 - 32ビットのOSの場合は、2^32≒約40億バイト≒4GB
 - 64ビットのOS(とCPU)の場合は2^64バイト



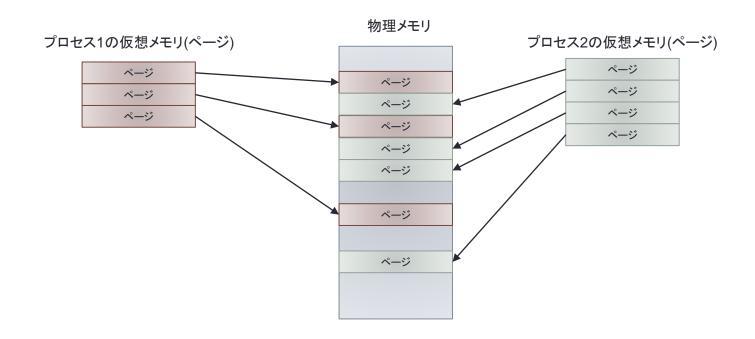
仮想メモリと仮想アドレス空間

- カーネルは複数のプロセスを稼働する
- ・カーネルは各プロセスに独立したメモリ空間を提供する
 - 独立したメモリ空間は仮想メモリと呼ばれる
 - 仮想メモリには仮想アドレス空間が割り当てられる
 - 仮想アドレスは物理メモリのアドレスとは関係ない



ページング

- 仮想メモリと物理メモリのアドレスのマッピング方式の一つ
 - Linuxで採用されている
- ・メモリ領域を小さな固定長のページの集合とし、 ページ単位で管理

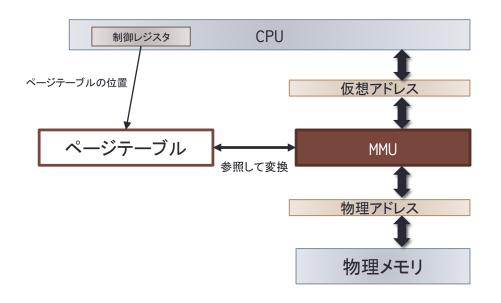


Memory Management Unit(MMU)

- 仮想アドレスを物理アドレスに変換する
- CPUにハードウェアとして内蔵されている



- ・メインメモリ上に配置するページテーブルに 仮想⇔物理の対応表を保持する
 - 高速化のためのTLB(Translation Lookaside Buffer)キャッシュもある



TLB

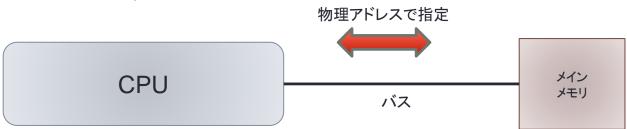
仮想アドレスページ	物理アドレスページ
0x03FF00	0x3FEE00

仮想アドレスをキーとして物理アドレスを得る ハッシュテーブルのようなもの

TLBの場所はCPUによって異なる

仮想メモリの有効範囲

- ・仮想メモリ(仮想アドレス)が有効なのはCPU内のみ
- バスに流れるメモリアドレスは物理アドレス
- ユーザープログラムは仮想アドレスのみ
 - カーネルモードのプログラムのみ物理アドレスを直接扱える
 - CPUはカーネルモードとユーザモードの2種類をサポート
 - ・カーネルモードのプログラム
 - カーネル本体
 - デバイスドライバ



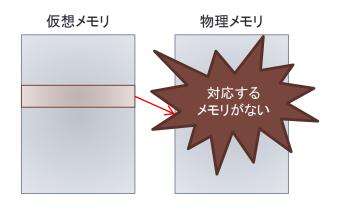
物理メモリの割り当て

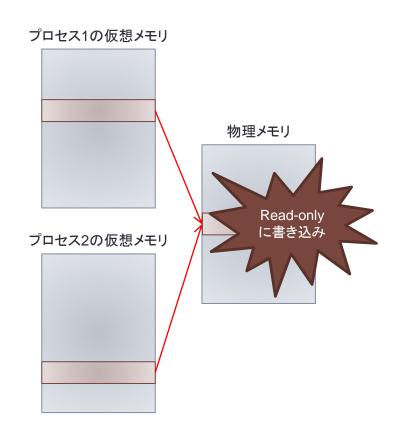
- 仮想メモリは使用される際に物理メモリに割り当てられる
- デマンドページング方式と呼ばれる
- 二段階割り当て
 - ・仮想メモリの割り当て(mmapシステムコール等) ※管理表に登録するのみ
 - 実際にアクセスがあった際に物理メモリが割り当てられる
- アクセスのない仮想メモリは物理メモリが割り当てられない

仮想メモリサイズ ≧ 必要な物理メモリサイズ

余談:ページフォルト

- ・物理メモリが割り当てられていない場所をプロセスがアクセスした時に発生する
 - 正しいアドレスを最初にアクセスした場合
 - ページテーブルがなければ作る
 - ・ 正しいアドレスを2回目以降にアクセスした場合
 - ・ページインの処理を行う(後述)
 - 不正なアドレスをアクセスした場合
 - エラーでプロセス終了





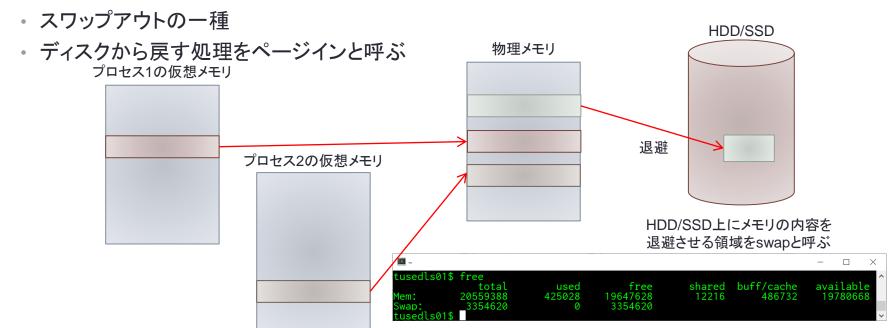
スワッピング(swap)

・スワップアウト

- ・物理メモリが足りなくなった場合にメモリの内容をHDDやSSDに書き出し(スワップアウト)してメモリ不足を補う
- ・ スワップアウトするディスクの領域を仮想メモリと呼んだりする(紛らわしい)

・ページアウト

• 仮想記憶のメモリ管理単位であるページがディスクに退避される



余談:スワップ領域の設定(windows)

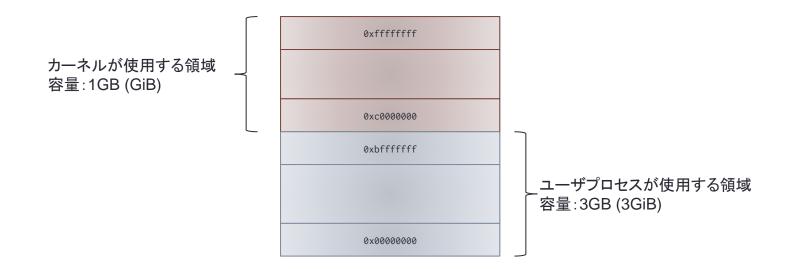
システムのプロパティ	パフォーマンス オプション	仮想Xモリ ×
コンピューター名 ハードウェア 詳細設定 システムの保護 リモート Administrator としてログオンしない場合は、これらのほとんどは変更できません。 パフォーマンス 根党効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ 設定(S)	 視覚効果(詳細設定)データ実行防止 プロセッサのスケジュール プロセッサのリソースをどう割り当てるかを選択します。 次を最適なパフォーマンスに調整: ● プログラム(2) ● プログラム(2) 	✓ すべてのドライブのページング ファイルのサイズを自動的に管理する(A) 金ペライブのページング ファイルのサイズ ドンイブ (ボリューム ラベル)(D) ページング ファイルのサイズ (MB) D: なし
ユーザー プロファイル サインインに関連したデスクトップ設定 設定(£) 起動と回復 システム起動、システム障害、およびデバッグ情報	仮想メモリ ページ ファイルとはハードディスク上の領域で、RAM のように Windows で使用されます。 すべてのドライブの総ページング ファイル サイズ: 9728 MB 変更(C)	選択したドヤブ: C: [Windows] 空き領域: 691018 MB
設定(I) 環境変数(<u>N</u>)		システム管理サイズ(M) ページング ファイルなし(L) すべてのドライブの総ペーシング ファイル サイズ 最小限: 6 MB 推奨: 9076 MB
OK キャンセル 適用(A)	OK キャンセル 適用(A)	推奨: 94/76 MB 現在の割り当て: 97.18 MB OK キャンセル

このチェックを外すとカスタマイズ可能

仮想アドレス空間の内訳

32ビット OSの場合

仮想メモリはプロセスごとに異なるが カーネルが使用する領域は全仮想メモリで共通となる



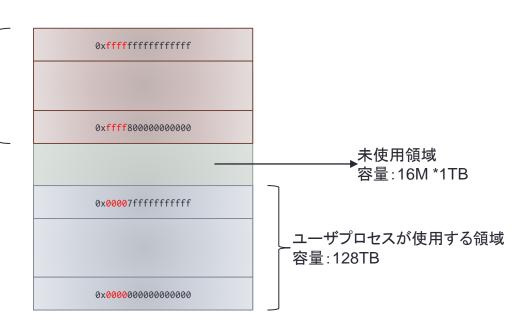
仮想アドレス空間の内訳

64ビット OSの場合

カーネルが使用する領域

容量:128TB

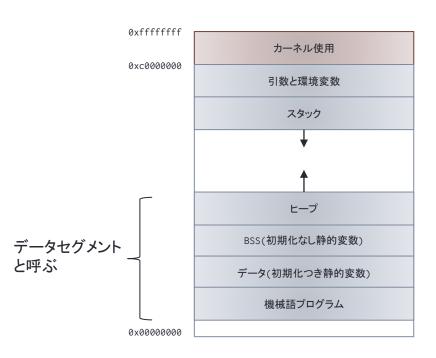
物理メモリはすべて この領域から連続して アクセス可能



赤字の部分を省くと連続したアドレス空間になる (実質48ビットの仮想アドレス空間) ※56ビットのケースもある

参考: https://www.kernel.org/doc/html/latest/x86/x86_64/mm.html

仮想アドレス空間の基本的構造





大きく分けてプログラム, データ, スタックの3つに分割 プログラムは機械語命令を入れる(読み込み専用)

データ:大域変数,静的変数,malloc() 等で確保したデータを置く さらに3つに分割

- データ: 初期値付きの変数
- BSS:初期値なしの変数 OSが自動的に0に初期化
- ヒープ:malloc() で確保

スタックには、関数の局所変数(auto変数、static が付かないもの), 関数の引数 が置かれる スタックの底には引数と環境変数が置かれる (高い番地から低い番地へ伸びる) ヒープは、低い番地から高い番地へ伸びる

スタック領域とヒープ領域

どちらも動的に割り当てと解放が可能なメモリ領域

- スタック領域

- スタック領域は、確保した順番と逆の順番で解放する
- 管理は易しいが、任意に確保と解放を決められない。
- プログラムには「入れ子構造」が多く使われ、入れ子の内側ほどデータ保持の期間が短くなるためスタック領域との相性が良い

```
tusedls01$ cat rec.c
#include <stdio.h>

int frac(int n){
    printf("%p\n",&n);
    if(n==1) return 1;
    return n* frac(n-1);
}

int main(){
    printf("%d\n",frac(5));
}

tusedls01$ gcc rec.c -o rec
tusedls01$ ./rec
0x7fffef2b5ecc
0x7fffef2b5ecc
0x7fffef2b5eac
```

・ヒープ領域

- ・ヒープ(山積み)領域には順序がない
- どのような順序で確保・解放するかは、ソフトウェア側で自由に決められる
- 全体の管理は難しいため、性能的に遅くなることがある。

余談: 実際のカーネルソース

/usr/src/kernels/3.10.0-957.1.3.el7.x86_64/include/linux/sched.h

/usr/src/kernels/3.10.0-957.1.3.el7.x86_64/include/linux/mm_types.h

- start_code, end_code: テキスト・セグメントの開始番地と終了番地
- start_brk, brk: ヒープの開始番地と終了番地
- start_stack: スタックの開始番地
- arg_start, arg_end: 引数の開始番地と終了番地
- env_start, env_end: 環境変数の開始番地と終了番地

プロセスごとの仮想アドレス空間

/proc/プロセスID/maps

```
tusedls17$ ps
 PIÐ TTY
                    TIME CMD
21395 pts/1
               00:00:00 bash
               00:00:00 ps
25057 pts/1
cusedls17$ more /proc/21395/maps
0400000-004dd000 r-xp 00000000 fd:00 50336697
                                                                                /usr/bin/bash
06dd000-006de000 r--p 000dd000 fd:00 50336697
                                                                                /usr/bin/bash
006de000-006e7000 rw-p 000de000 fd:00 50336697
006e7000-006ed000 rw-p 00000000 00:00 0
02520000-026e3000 rw-p 00000000 00:00 0
                                                                                /usr/bin/bash
                                                                                [heap]
                                                                                /usr/lib/locale/locale-archive
f8db9c0d000-7f8dc0137000 r--p 00000000 fd:00 33720336
f8dc0137000-7f8dc02f9000 r-xp 00000000 fd:00 79389
                                                                                /usr/lib64/libc-2.17.so
f8dc02f9000-7f8dc04f9000 ---p 001c2000 fd:00 79389
                                                                                /usr/lib64/libc-2.17.so
7f8dc04f9000-7f8dc04fd000 r--p 001c2000 fd:00 79389
7f8dc04fd000-7f8dc04ff000 rw-p 001c6000 fd:00 79389
                                                                                /usr/lib64/libc-2.17.so
                                                                                /usr/lib64/libc-2.17.so
 8dc04ff000-7f8dc0504000 rw-p 00000000
 8dc0504000-7f8dc0506000 r-xp 00000000
                                                                                /usr/lib64/libdl-2.17.so
f8dc0506000-7f8dc0706000 ---p 00002000 fd:00 79395
                                                                                /usr/lib64/libdl-2.17.so
f8dc0706000-7f8dc0707000 r--p 00002000
                                                                                /usr/lib64/libdl-2.17.so
f8dc0707000-7f8dc0708000 rw-p 00003000
                                                                                /usr/lib64/libdl-2.17.so
                                                                                /usr/lib64/libtinfo.so.5.9
f8dc0708000-7f8dc072d000 r-xp 00000000
f8dc072d000-7f8dc092d000 ---p 00025000 fd:00
                                                                                /usr/lib64/libtinfo.so.5.9
 8dc092d000-7f8dc0931000 r--p 00025000 fd:00 7947
                                                                                /usr/lib64/libtinfo.so.5.9
 8dc0931000-7f8dc0932000 rw-p 00029000 fd:00
                                                                                /usr/lib64/libtinfo.so.5.9
                          パーミッション
 仮想メモリの利用範囲
                                                                                          利用状況
                          r - 読み
                          x - 実行
                          p - private
```

strace

"&main = 0x400580\n". 17&main = 0x400580 17 "&func = 0x40055d\n". 17&func = 0x40055d

exited with 17 +++

プログラム実行時の呼び出しシステムコールをみる

```
- □ × ■ ~
                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             ./address", ["./address"], [/* 35 vars */]) = 0
                                                                                                                                                                                                                                                               abyNoLL, 4090, PROI_READIPROI_WRITE, MAP_PRIVATE;MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7fade1028000
ap(NULL, 157557, PROT READ, MAP_PRIVATE, 3, 0) = 0x7fade1001000
ap(NULL, 3981792, PROT_READ;PROT_EXEC, MAP_PRIVATE;MAP_DENYWRITE, 3, 0) = 0x7fade0a3b000
ap(0x7fade0dfd000, 24576, PROT_READ;PROT_WRITE, MAP_PRIVATE;MAP_FIXED;MAP_DENYWRITE, 3, 0)
2000) = 0x7fade0dfd000
                                                                                                                                                                                                                                                                     (NULL, 4096, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7fade1028000
   (NULL) 4096, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7ff9bbc68000 ess("/etc/ld.so.preload", R OK) = -1 ENDENT (No such file or directory) en("/etc/ld.so.cache", 0 RDONLY|0 CLOEXEC) = 3 cat(3, {st.mode=S_IFREG|0644, st.size=157557, ...}) = 0 en(NULL, 157557, PROT_READ, MAP_PRIVATE, 3, 0) = 0x7ff9bbc41000
                                                                                                                                                                                                                                                                 p(0x7fade0e03000, 16864, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_FIXED|MAP_ANONYMOUS.
                                                                                                                                                                                                                                                           - 07. adecessor

map(NULL, 4096, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7fade10000000

map(NULL, 8192, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7fade0ffe0000

map(NULL, 4096, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7fade1027000

nain:&c = 0x7fff40bbad94
  ose(3)
en("/lib64/libc.so.6", O_RDONLY¦O_CLOEXEC) = 3
ad(3, "\177ELF\2\1\1\3\0\0\0\0\0\0\0\0\0\0\3\0>\0\1\0\0\0\3\0$\$\2\0\0\0\0\0\0\0"..., 832) = 832
tat(3, {st_mode=S_IFREG\0755, st_size=2151672, ...}) = 0
ap\NULL, 3981792, PROT_READ\PROT_EXEC, MAP_PRIVATE\MAP_DENYWRITE, 3, 0) = 0x7ff9bb67b000
rotect(0x7ff9bb83d000, 2097152, PROT_NONE) = 0
ap\(0x7ff9bba3d000, 24576, PROT_READ\PROT_WRITE, MAP_PRIVATE\MAP_FIXED\MAP_DENYWRITE, 3, 0x1
000) = 0x7ff9bba3d000
ap\(0x7ff9bba3d000, 16864, PROT_READ\PROT_WRITE, MAP_PRIVATE\MAP_FIXED\MAP_ANONYMOUS, -1, 0)
                                                                                                                                                                                                                                                            global = 0x601034
                                                                                                                                                                                                                                                           nain:p = 0x18f7010
                                                                                                                                                                                                                                                           kmain = 0x400580
kfunc = 0x40055d
lose(3)
map(NULL, 4096, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7ff9bbc40000
map(NULL, 8192, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7ff9bbc3e000
rch_prctl(ARCH_SET_FS, 0x7ff9bbc3e740) = 0
protect(0x7ff9bbc3d000, 16384, PROT_READ) = 0
protect(0x600000, 4096, PROT_READ) = 0
protect(0x7ff9bbc69000, 4096, PROT_READ) = 0
unmap(0x7ff9bbc41000, 157557) = 0
stat(1, {st_mode=S_IFCHR]0620, st_rdev=makedev(136, 0),...}) = 0
map(NULL, 4096, PROT_READ|PROT_WRITE, MAP_PRIVATE|MAP_ANONYMOUS, -1, 0) = 0x7ff9bbc67000
rite(1, "main:&c = 0x7ffdd4171ae4\n", 25main:&c = 0x7ffdd4171ae4
                                                                                                                                                                                                                                                           ++ exited with 17 +++
                                                                                                                                                                                                                                                                                     -e オプションをつけると
                                                                                                                                                                                                                                                                                      特定のシステムコールのみ表示
                    "&global = 0x601034\n", 19&global = 0x601034
                 96000) = 0x1736000

| 0x1736000

= 0x1796000

| main:p = 0x1775010\n", 19main:p = 0x1775010
```

登場するシステムコール

- mmap(スタック用)
 - ・OS上のリソースの一部または全部を連続した仮想アドレス空間に マッピングする関数
- brk(ヒープ用)
 - プログラムブレーク (program break) の場所を変更する
 - プログラムブレークはデータセグメントの末尾を示す
 - プログラムブレークを増やす→プロセスへのメモリを割り当てる
 - プログラムブレークを減らす→メモリを解放する
- mprotect
 - ・メモリ領域の保護設定をする
 - read, write, execなどの権限を付与

余談:mallocとmmapとヒープ

- mallocは基本的にヒープ領域を使って割り当てる
- •一定サイズを超えるmallocが呼ばれた場合, mmapを使う

```
\times
tusedls01$ cat malloctest1.c
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
int main(){
 int *p:
 p = malloc(sizeof(int)*80000);
 printf("p=%p\n".p):
tusedls01$ cat malloctest2.c
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
int main(){
 p = malloc(sizeof(int)*1);
 printf("p=%p\n".p):
tusedls01$ gcc malloctest1.c -o malloctest1
tusedls01$ gcc malloctest2.c -o malloctest2
tusedls01$ ./malloctest1
n=0x7fcb53366010
tusedls01$ ./malloctest2
```

まとめ

- ・メモリ管理もOSの重要な機能の一つである
- 各プロセスは仮想メモリと仮想アドレス空間が独立に割り当てられる
- 仮想メモリと物理メモリの対応はMMUが管理する
- ユーザプログラムは仮想アドレス空間しか見えない。
- 仮想メモリにはカーネル領域とユーザ領域がある
 - カーネル領域は全プロセスで共通である
 - ・ ユーザ領域はプロセスごとの仮想のメモリ空間
- 仮想メモリのアドレス空間は、プログラム、データ、スタックの3領域がある

質問あればどうぞ